

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	都市計画課	氏名	嘉藤 幸介
派遣先 団体名	NPO法人 緑と水の連絡会議		
<p>① 研修の日時 平成27年9月14日（月）～平成27年9月17日（木）</p> <p>② 研修の内容</p> <p>(1) 国際ワークキャンプボランティアへの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> 石見銀山周辺の竹伐採作業 放置しておけば遺跡を壊す竹を伐採し、竹チップにする。 薬品散布(竹の育成を抑制する目的)を行うための事前準備。指定された箇所を竹を伐採し、地面を露出させた状態にする。 <p>(2) 「居場所」を利用する青少年との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークキャンプボランティアのメンバーを交えてミニ運動会を行う 「緑と水の連絡会議」の拠点施設である「ゆきみーる」内には、「青少年の居場所 ほっとスペース ゆきみーる」(リラックスして過ごせる空間が欲しいと思っている若者から、ボランティア活動や国際交流をしてみたい若者まで、ほっとできる居場所です。－HPより抜粋)がある。今回の研修では、この施設を利用する青少年との交流も行った。 <p>(3) エコアクション見本市の出店準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 9月22日に市内で開催される「中日つあん」で出店するための準備を行う 環境に関するクイズを考え、パネルを作成する。主に小学生を対象とし、各国の環境事情に合わせた内容を盛り込む。また、当日販売するドラム缶釜で焼いた自家製ピザも作成し、試食した。 <p>(4) アクリルたわしの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際ボランティアNGO NICEスタッフによるアクリルたわし作成実習(国内外ボランティア活動を行「NICE(ナイス)」は1990年の設立。国内・海外95か国でワークキャンプ等の各種事業を行います。－HPより) <p>(5) 「緑と水の連絡会議」プレゼンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> 高橋理事長による「緑と水の連絡会議」足跡のプレゼンテーションを聴く <p>(6) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 宿泊での研修となるため、全員で協力しながら炊事等を行う <p>③ ハイライト</p>			

9月14日(月)

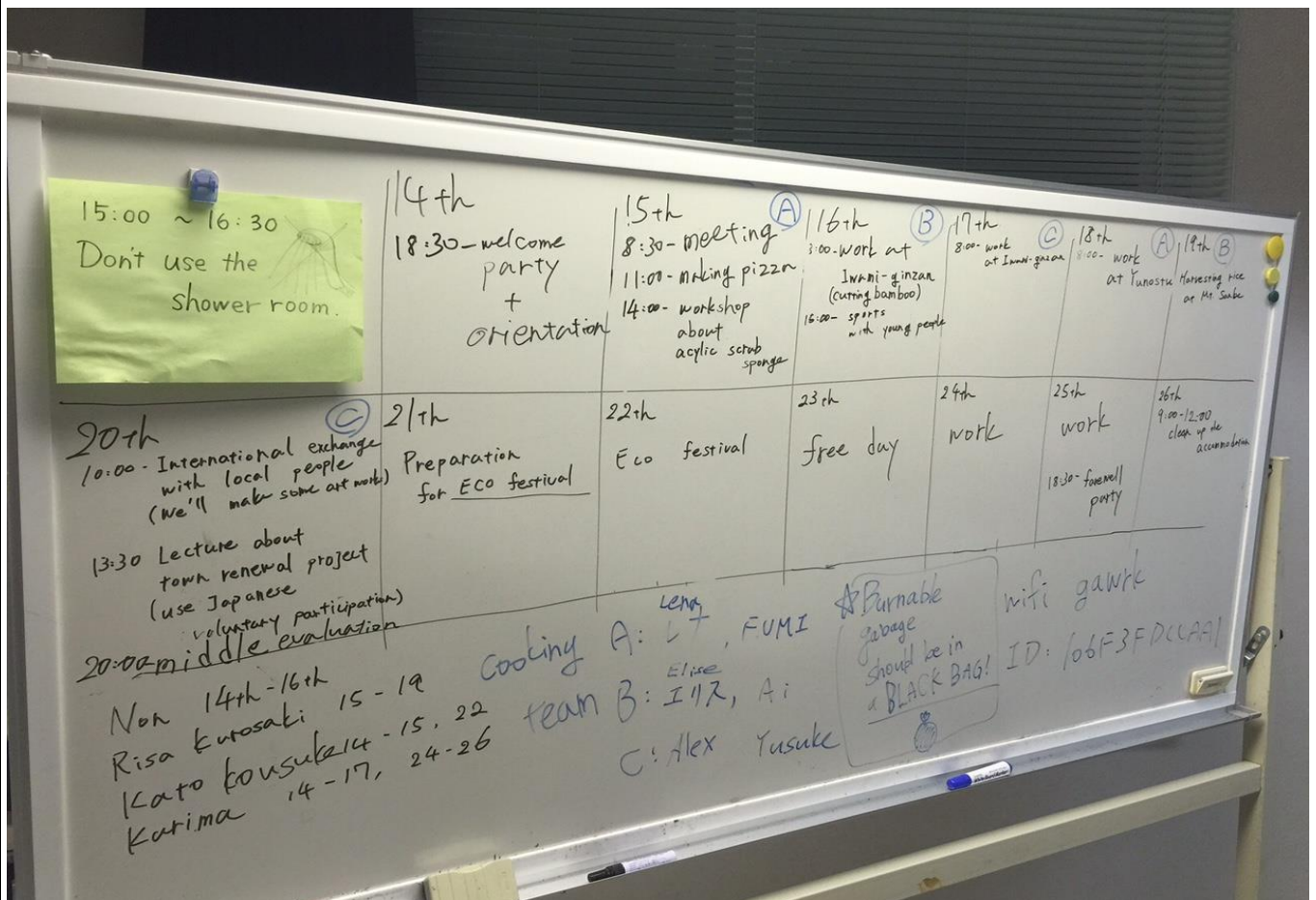
(1) 2週間の日程で国際ワークキャンプが始まる。

(※国際ワークキャンプとは、国内・海外で世界の仲間や住民と一緒に、地域のために動く「合宿型のボランティア」のこと。日本を含め、世界約95か国、3000か所で開催されている。)

「NPO法人 水と緑の連絡会議」では、各国及び日本各地から人材を受け入れ、2週間の日程で、様々な活動を行います。

この日は、メンバーの顔合わせを行い、2週間の活動スケジュールを確認しました。日本語を交えての会話となりますが、基本的にミーティングの進行は英語で行いますし、可能な限り英語で会話していきます。

【2週間のスケジュールをホワイトボードに】



今回のメンバーは、外国人3名(男性1、女性2)、日本人8名(男性4名、4名)です。日本人は大学生が中心ですが、海外からの参加者はすべて社会人でした。日本では、休暇取得や業務の都合上、合宿型のボランティア活動等に参加できる機会が、極端に限られています。世界各国で行われている国際ワークキャンプへの参加となると、さらに敷居が高くなってしまいます。そういう意味では、外国人ボランティアの受け入れノウハウをもつ「緑と水の連絡会議」が県内にあることは、特筆すべきです。

(2) 初日を振り返って

まず、日常生活で英語を使う機会がほとんどないため、全く単語が出てきませんでした。受験英語では駄目だと痛感させられました。私は、このような調子だったのですが、日本の大学生たちは、英語を使うことに何の抵抗もない様子でした。非常に優秀です。この日は、深夜まで交流を深めました。外国人との交流はもちろん、大学生との交流も久しぶりでしたので、新鮮でした。

9月15日(火)

(1) エコアクション見本市の出店準備

午前中は、エコアクション見本市(9/22大田市内で開催)のブース出店準備を行いました。環境に関するクイズのパネルを作成し、当日展示します。クイズを解いた小学生には景品をプレゼント。ロシア、フランス出身の外国人メンバーと協力しながら、各国に関連した環境クイズを練り上げます。

【このような形で作業を進める】

【各グループでアイデア出し】



また、昼食をかねて、見本市で販売する自家製ピザを作りました。生地をこねるところからすべて手作業で行い、仕上げはドラム缶の釜で一気に焼き上げていきます。

【昼食は自家製ピザ(エコアクション見本市での実演販売の練習をかねて)】



(2) アクリルたわし作成実習

午後はアクリルたわし作成実習を行いました。NICEスタッフから、ベトナムでアクリルたわしをめぐる状況を教えてもらいながら、実際に作ってみました。ベトナムにおける貧困問題は非常に深刻です。貧困は世界各国で、その形を微妙に変えながらも確実に存在しています。日本における貧困とは一体何だろうかと考えさせられました。世界各国に目を向けることが、実は身近で起きている様々な問題を直視することに繋がるのかもしれない。



【完成したアクリルたわし】



【にゅうめんとカーシャ(蕎麦の実)】

(3) 食事

ワークキャンプでは、基本的に自炊します。今回は日ごとにクッキングチームを決めました。



【カーシャ(ロシアではよく食べるらしい)】



9月16日(水)

(1) 石見銀山遺跡周辺の竹伐採作業

この日は、石見銀山周辺の竹伐採作業を行いました。竹林内での作業は非常に重労働です。



外部機関からの委託を受けて、竹の伐採を行います。この機関では、竹の成長を抑制するための研究を進めており、そのお手伝いです。斜面での作業となるため、足腰に負担がかかります。竹は意外と簡単に伐採できるのですが、竹自体に重量があるため、力仕事となります。



(2) 3日目を振り返って

今回のワークキャンプで初めてとなる竹の伐採作業を行いました。効率よく作業を進めることができました。しかし、作業後の疲労感がすさまじく、この日は皆疲れ切ってしまいました。

9月17日(木)

(1) 石見銀山遺跡周辺の竹伐採作業

前日とは別の場所で竹の伐採と竹チップ加工作業を行いました。相変わらず斜面での伐採作業をしながら、機械を使って竹を細かく砕いていきます。前日、体調不良で休んでいたメンバーも復帰し、フルメンバーで作業を進めていきます。



砕いた竹は肥料等になるそうですが、今回はそのまま自然乾燥させ、いずれは土へと還ります。この日も急斜面を登り、相当な数の竹を伐採しました。

石見銀山遺跡周辺には、いたるところに竹林が広がっています。誰かが、このような地道な作業を積み重ねていかなければ竹林は広がり続け、遺跡を壊すことにつながります。本当に地道な作業ですが、石見銀山遺跡を守るには欠かせない作業です。



(2) 作業後

クッキングチームの準備した昼食をとった後、三瓶山へ行きました。三瓶には貴重な草原が残っています。この草原を守る活動も「緑と水の連絡会議」の重要な事業です。草原というとモンゴルの大草原を想像しがちですが、県内にも草原があることは、意外と知られていない事実です。日本は、樹木の生育に適した気候のため、草原を放っておくと、数十年で森林に変わります。そのため、牛の放牧や野焼きなど、人々の努力で草原が保たれているのが現状です。そのような中で、草原の重要性に気づき、それを提唱しながら様々な保全活動を続けてきたのが「緑と水の連絡会議」です。

【昼食の一コマ】



【三瓶の草原を前に】



④ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

まず、受け入れていただいた「NPO法人 緑と水の連絡会議」のみなさま、本当にありがとうございました。素晴らしいワークキャンプに参加させていただいたことを心より感謝いたします。業務の都合上、2週間の日程全てに参加することはできませんでしたが、大変充実した研修となりました。「緑と水の連絡会議」のみなさまには、引き続き「国際ワークキャンプ」の活動を続けてほしいと願っています。きっと、ボス(理事長)やワダさん(事務局長)をはじめ、今のスタッフである限り続くと思いますが、ぜひ継続してください。

普段、NPOの活動に参加する機会がないため、全ての体験が楽しく、新鮮でした。また、ワークキャンプを通じて国内外の若いメンバーと交流できたのも貴重な経験となりました。欲をいえば、自分の語学力がもう少し高ければ、さらに素晴らしい経験ができたと思います。

今後は県職員として、いずれかのタイミングでNPOに関わる事業に携わりたいと考えています。

⑤ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

宿泊しなければ、ワークキャンプの意味が薄れますので、研修に参加する場合は「ゆきみーる」での宿泊をお勧めします。

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)報告書は、平成28年1月31日までに人事課あてにメールで提出してください。